

■ 保健環境研究センター9月だより ～レジオネラ症ってなあに？～

レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因で起こる感染症で、肺炎を中心とするレジオネラ肺炎と、肺炎にならない自然に治癒するポンティアック熱の2種類があります。

レジオネラ肺炎は、平均4～5日の潜伏期間を経てから発病します。悪寒、高熱、全身倦怠感、頭痛などが起こり、呼吸症状としては痰の少ない咳、少量の粘性痰、胸痛、呼吸困難などが現れ、日が続につれ症状が重くなっていき



歩行障害や意識混濁などの神経障害がまれにあります。進行が早いので、医療機関への受診が遅れ、有効な抗生剤療法が間に合わないと重篤になり死に至る場合もあります。この病気は高齢者、乳幼児、糖尿病患者、慢性呼吸器疾患患者、免疫不全者など抵抗力のない人に感染しやすい傾向がありますが、健康な人でも疲労などで体力が落ちていると感染します。

レジオネラ属菌は土や河川、沼などの自然環境に生息しています。この菌を含んだ目に見えないほどの細かい水滴（エアロゾル）を吸入することによって気道感染が起こります。これまでに、温泉、公衆浴場、24時間風呂などの循環式浴槽、加湿器、冷却塔、噴水からの感染が報告されています。このように人から人へ感染するものではありませんが、共通の感染源から複数の人が感染し発症するという特徴があります。



レジオネラ症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で四類に分類され、患者をレジオネラ症と診断した医師は、診断後直ちに最寄りの保健所へ届け出ることになっています。県内での発生は他府県に比べて少ないのですが、過去に死亡例もあるので疑わしいときはすぐに受診するなど注意が必要です。

【レジオネラ症発生届け出数】

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
奈良県（件）	3	3	5	4	0
全国（件）	518	668	892	689	463
死亡（件）	31	31	46	58	不明

\*感染症発生動向調査より抜粋 （2010年34週時点）

（細菌チーム 橋田 記）